

# 笑う門には 福来る。



松山市勝山町1-18-10  
(株)日本交通社  
TEL (089) 946-3911  
発行人：中村 剛志

悟り  
悟りとは  
自分の花を  
咲かせることだ  
どんを小さい  
花でも、い  
誰のものでもない  
独自の花を  
咲かせることだ  
泉 辰

開館四周年記念特別展

森信三と

坂村真民の世界

◆三月五日～六月五日

坂村真民記念館(砥部町)

明朗・愛和・喜働

山笑う



故郷ふるさとや どちらを見ても 山笑ふ

明治の俳人、正岡子規の俳句です。

病床の子規が、故郷の松山の春を想っ

て詠んだ俳句だと言われています。

「春が来たなあ……。今頃、故郷の松山

は草木が芽吹いて、山々が明るくにごやかに

笑っているだろうなあ……。」という意味

です。

「山笑う」は、俳句では春の季語とし

て江戸時代から詠まれてきました。

ちなみに、夏は「山滴やまたたる」、秋は「山装やまぢ

う」、冬は「山眠る」が季語です。

三十四年の短い生涯だった子規は、最

後の七年間、東京の根岸で結核のために

寝たきりの生活を送りました。

しかし、病で苦しみながらも、新しい時

代の俳句や短歌を主導して、日本の近代

文学に偉大な業績を残しました。

自分の生まれ育った故郷を想う時、誰

もが懐かしさで胸がいっぱいになり、心身

が癒されるのではないのでしょうか。

故郷の海や山を想い、自然の恵みに感

謝したいものです。

●自然の恵みに感謝しましょう

「職場の教養」より

結女さんの松山ミクロン

朝寝覚

今なら許す

かもしれぬ

春の炉に

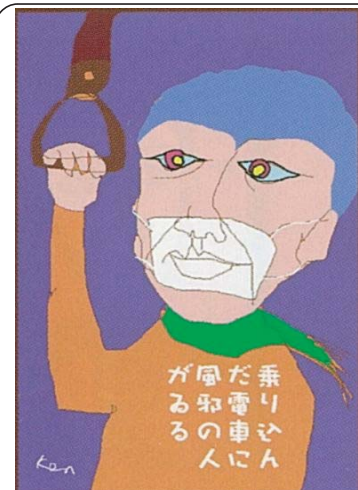
少女漫画を

焼べており



八木健さんの川柳アート

乗り込んだ電車に風邪の人がゐる



宇和ちゃんの啖呵短歌

生徒らの旅立ち祝う菜の花を

土佐に追いしは寒き風の日

道迷い車を停めて窓を開け

尋ねおりけり案山子と知らず

てがう

テガイよったら囁まれるぞ

【からかって(ちよっかい)いと囁まれますよ】

伊予弁  
知るとるけ